

---

# 第7回モニタリング会議 ご説明資料 (2016年4月～2016年6月業績報告)

2016年9月6日



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社PL	
□ 路線バスPL	
□ 軌道PL	
2. 公共交通利用状況	p.6
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通取組状況	p.8
4. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.9

## 計画と実績の対比（全社PL）

## 全社の2016年4月～6月実績は、以下のとおりです

※事業再生計画の財務数字は、旅行業（とさでんトラベル）との合算であり、とさでん本社との合算数値となります

	2016/4～2017/3月	2016/4～6月	進捗率 ②÷①	単位：百万円	
	12ヶ月 計画①	第1四半期 実績②		2015/4～6月 第1四半期 前年同期	前年 同期比
売上高	5,568	1,458	26%	1,470	99%
売上原価	579	195	34%	198	98%
差引収益	4,989	1,262	25%	1,272	99%
人件費	2,593	603	23%	595	101%
厚生費	304	82	27%	80	103%
動力費	533	82	15%	98	84%
修繕費	306	72	24%	82	88%
物件費	108	22	20%	27	81%
経費	1,010	238	24%	224	106%
諸税	105	18	17%	20	90%
減価償却費	451	112	25%	102	110%
営業費計	5,410	1,230	23%	1,228	100%
営業利益	-421	33	-	44	75%
営業外収益	56	35	63%	36	97%
営業外費用	74	27	36%	27	100%
経常利益	-439	41	-	53	77%
特別利益	498	8	2%	4	200%
特別損失	182	34	19%	18	189%
税引前当期利益	-123	15	-	38	39%
法人税等	2	-	-	-	-
当期純利益	-125	15	-	38	39%

## ＜事業再生計画比＞

- 売上はほぼ計画どおりの進捗。軽油単価の低位推移により路線・高速・貸切バス等の動力費が低減したことなどから、営業利益段階では33百万の黒字計上

## ＜2016年4月～6月第1四半期の概況＞

- 売上高は1,458百万円となり計画に対する進捗率26%
- 売上原価は旅行事業部門の要因により195百万円計上となったが、差引収益は1,262百万円、計画に対する進捗率25%
- 路線バス事業の売上は284百万円、計画に対する進捗率26%
- 軌道事業の売上は265百万円、計画に対する進捗率27%
- 営業費は、軽油単価の低位推移により計画に対する進捗率23%
- 営業外収支では、業務委託費・有価証券配当増で8百万円のプラス
- 特別利益は、計画上補助金は年度末一括計上しているが一部入金等あり  
特別損失は、事業再生関連費用34百万（専門家費用・制服代・一宮基地の棧橋集約費用等）
- 第1四半期経過時点で当期純利益15百万円の黒字計上

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等 修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等  
 諸税・・・固定資産税・自動車税等 減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却  
 営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等 営業外費用・・・支払利息等 特別利益・・・補助金等 特別損失・・・事業再生関連費用等

物件費・・・水道光熱費・備用品等

## 計画と実績の対比（路線バスPL）

路線バス事業の2016年4月～6月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

	2016/4～2017/3月 12ヶ月	2016/4～6月 第1四半期	進捗率 ②÷①	2015/4～6月 第1四半期	前年 同期比
	計画①	累計実績②		前年同期	
売上高	1,106	284	26%	294	97%
売上原価			-		-
差引収益	1,106	284	26%	294	97%
人件費	749	190	25%	177	107%
厚生費	86	26	30%	24	108%
動力費	193	30	16%	35	86%
修繕費	120	29	24%	31	94%
物件費	29	5	17%	4	125%
経費	164	43	26%	31	139%
諸税	25	6	24%	6	100%
減価償却費	79	17	22%	18	94%
営業費計	1,445	345	24%	326	106%
専属営業損益	-339	-61	-	-32	-
減価償却前専属営業損益	-259	-44	-	-14	-

単位:百万円

## &lt;計画差異要因等&gt;

- ✓ 売上高
  - ほぼ計画どおりの進捗
- ✓ 費用
  - 人件費:時間外手当増
  - 厚生費:科目計上ルール変更に伴い増加
  - 動力費:軽油単価の低位推移により低減
  - 修繕他:ほぼ計画通りの進捗
- ✓ 専属営業損益
  - 動力費低減などにより、第1四半期経過時点で計画を上回る進捗

## &lt;前年同期差異要因等&gt;

- ✓ 費用
  - 人件費・厚生費:昇給・時間外の増
  - 経費:車両保険料の増加及び前年同期における経費支払の月ずれ等

## &lt;専属営業損益とは&gt;

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

## 計画と実績の対比（軌道PL）

軌道事業の2016年4月～6月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位：百万円

	2016/4～2017/3月 12ヶ月 計画①	2016/4～6月 第1四半期 累計実績②	進捗率 ②÷①	2015/4～6月 第1四半期 前年同期	前年 同期比
売上高	1,000	265	27%	256	104%
売上原価			-		-
差引収益	1,000	265	27%	256	104%
人件費	559	135	24%	131	103%
厚生費	70	19	27%	18	106%
動力費	77	17	22%	18	94%
修繕費	47	9	19%	10	90%
物件費	22	5	23%	5	100%
経費	60	15	25%	13	115%
諸税	16	2	13%	2	100%
減価償却費	46	13	28%	11	118%
営業費計	897	214	24%	208	103%
専属営業損益	103	51	50%	48	106%
減価償却前専属営業損益	149	64	43%	59	108%

## ＜計画差異要因等＞

- ✓ 売上高
  - 計画を上回る進捗率で推移
- ✓ 費用
  - 人件費：ほぼ計画どおりの進捗率で推移
  - 厚生費：科目計上ルール変更に伴い増加
  - 経費等：ほぼ計画どおりの進捗率で推移
- ✓ 専属営業損益
  - 売上が計画を上回ったことなどにより、計画を大きく上回る進捗率で推移

## ＜専属営業損益とは＞

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

路線バスの2016年4月～6月利用状況は、収入は前年比97%、IC利用客数は前年比100%で推移

- 本表は運送収入のみ  
 広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

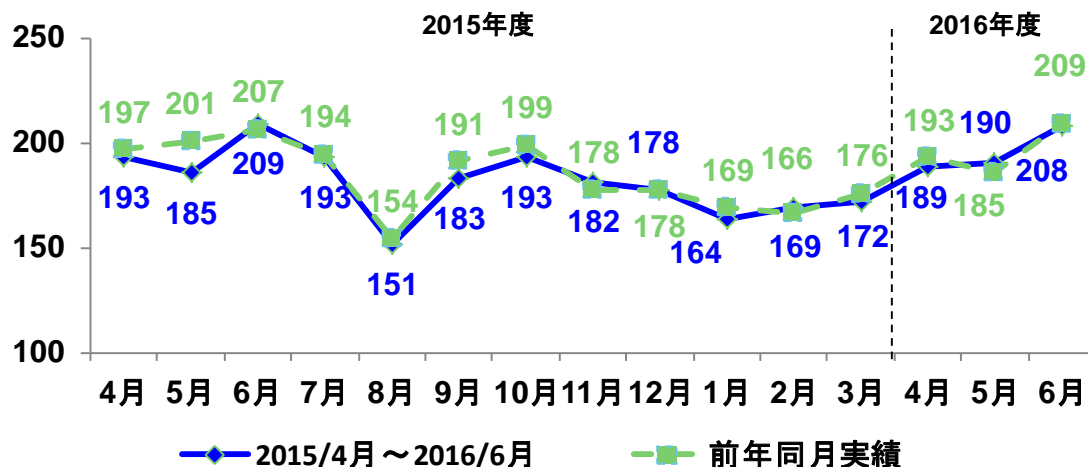
単位：百万円

	2015/4～6月 3ヶ月 前年同期	2016/4～6月 3ヶ月 実績	前年 同期比 ②÷①
運送収入	287	279	97%
①定期全体	64	63	99%
②定期外収入	223	215	97%
うち、現金収入	118	114	97%
うち、SF	105	101	96%

<路線バス収入の増減要因>

- ✓ 2014年10月1日とさでん交通スタート時のダイヤ改正にて△2.5%、及び2015年10月1日のダイヤ改正にて△0.6%の減キロダイヤ改正を実施
- ✓ 路線バスの前年同期比は97%であるが、空港連絡バスを除いた路線バス収入の前年同期比は99%で推移
- ✓ 同99%に留まった要因は、2015年10月以降の各種割引施策の影響は一定考えられるが、2016年4月～6月の雨天日が前年比+4日となったこと、利用促進施策の取り組みなどが考えられる

<利用客数推移> 単位：千人



<利用客について>

- ✓ 4月・6月は減少、5月は前年を上回る
- ✓ 3ヶ月累計の今期利用客数は、前年同期と同じ587千人であり、前年同期比100% (ICカード利用客数)

- 利用客数は、ICカード「ですか」データに基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約70%

軌道の2016年4月～6月利用状況は、収入は前年比101%、IC利用客数前年比102%で推移

- 本表は運送収入のみ  
 広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

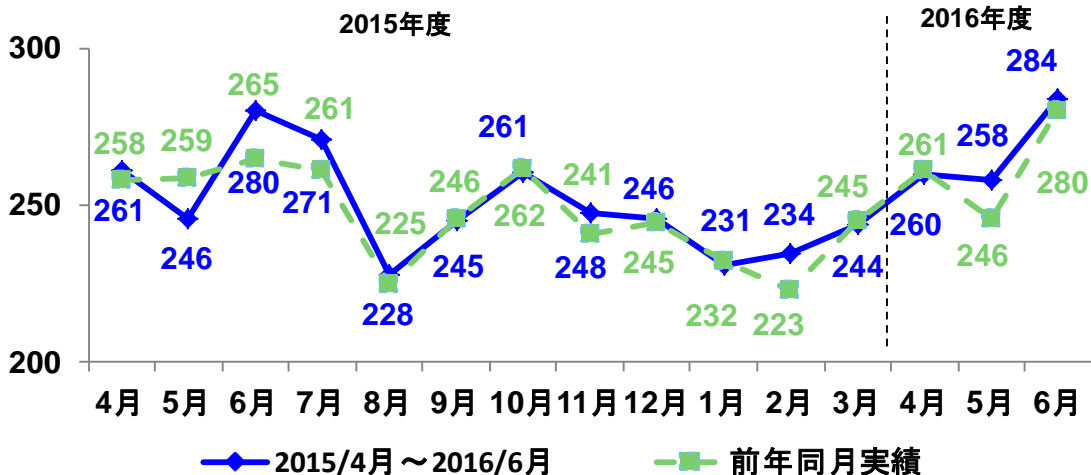
単位：百万円

	2015/4～6月 3ヶ月	2016/4～6月 3ヶ月	前年 同期比 ②÷①
	前年同期	実績	
運送収入	235	238	101%
①定期全体	65	66	102%
②定期外収入	170	171	101%
うち、現金収入	109	110	101%
うち、SF	62	61	99%

＜軌道収入の増減要因＞

- ✓ 定期、定期外ともに増加
- ✓ 2015年10月以降の各種割引施策の影響は一定考えられるが、2016年4月～6月の雨天日が前年比+4日となったこと、利用促進施策の取り組みなどもあり、前年比増となったと考えられる

＜利用客数推移＞ 単位：千人



＜利用客について＞

- ✓ 4月は減少、5～6月は増加に転じる
- ✓ 3ヶ月累計の今期利用客数は802千人、前年同期は787千人であり、前年同期比102% (ICカード利用客数)
- ✓ 増加要因としては、雨天日の増加、2015年10月以降の各種割引施策の効果などが考えられる

- 利用客数は、ICカード「ですか」データに基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約50%

路線バスと軌道のこれまでの取組施策は以下のとおりです。

《2016年度 実施施策》

内容	路線バス	軌道
■2016年4月1日～2016年6月末まで		
1. バスこっち導入 4月～	○	-
2. 乗継割引サービス(はりまや橋エリア限定)開始 4月～	○	○
3. ですかキャンペーン実施 4月～	○	○
4. 空港連絡バスルート変更(東部自動車道の開通に伴う) 4月～	○	-
5. ローラー活動(前浜パークタウン地区) 4月	○	○
6. 市内中心部電停 時刻表配布 4月	-	○
7. 高校県体応援一日乗車券の販売 5月	-	○
8. 電車の日イベント開催 5月	-	○
9. ローラー活動(いの地区) 6月	○	○
10. 公共交通体験プログラム〈電車とバスで高知をうろちょろ〉6月	○	○
11. 遠地津波避難訓練実施 6月	-	○
12. 婚活電車の運行 6月	-	○
■2016年7月1日以降		
1. 春・夏・冬休み! キッズ定期券販売開始 7月～	○	-
2. ICですかナイスエイジキャンペーン実施 7月～	○	○
3. 安全運転訓練車・接遇研修施設運用開始 7月～	○	-
4. キャラバンバン(中央公園)ブース出展 バスこっち体験他 7月	○	-
5. 知寄町3丁目P&R運用開始 7月～	-	○
6. 平成28年度高知セカンドライフ友の会「リフレッシュ講座」講演 9月	○	○
7. 小学生を対象とした出前授業 11月～	○	○



## 公共交通に係る設備投資計画の実施状況

2016年4月～6月の公共交通設備投資は、以下表のとおりです。

【2016年度 設備投資計画進捗状況】

単位：百万円

事業	計画			実施		備考
	投資計画総額	主な投資内容	投資計画額	投資実績額	投資目的・狙い	
路線バス	100	補助車両(5両)の購入	99	37	安全安心、利便性向上	補助車両(2両)購入
		その他	1	2	安全安心、利便性向上	教習車塗装および内装工事他
軌道	138	レールの重軌条化	50	0	安全安心	大橋通～上町二丁目間
		鏡川橋橋梁耐震設計	28	0	安全安心	
		停留場拡幅・上屋改良等	15	0	安全安心	はりまや橋下
		踏切保安装置	11	0	安全安心	篠原および篠原八幡踏切
		電柱建替工事他	34	0	安全安心他	電柱建替(後免線)
合計	238			39		

■当年度に計画していた軌道の車両購入(1両：250百万円)は、車両メーカーの製造計画の関係で、次年度(2017年度)購入に変更

■路線バス低床化率 36.4%(平成28年6月末時点)【路線バス車両数143両(空港連絡除く)、うち低床車両52両】

【事業再生計画 設備投資計画進捗状況(累計)】

単位：百万円

		計画0期 15/3半期	計画1期 16/3期	計画2期 17/3期	計画3期 18/3期	計画4期 19/3期	計画5期 20/3期	累計	
路線バス	計画	109	151	111	111	111	111	703	
	実績	146	70	39				255	36.3%
軌道	計画	51	139	279	197	118	37	821	
	実績	51	125	0				176	21.4%